



業である「植樹を通じてSDGsに取り組もう」という、松本市内の5か所の小中学校に生徒とともに桜やハナミズキ等を植える事業も3月、4月に行いました。5月末には「古民家で体験する日本伝統文化と外国人留学生との交流会」という松商学園インターアクトクラブと丸の内ビジネス専門学校、信州大学留学生との交流会も、密にならないように、場所を変えて行うことができました。昨年は松商学園インターアクトクラブの生徒とともに薄川の清掃や、一昨年千曲川氾濫の被害が大きかった長野市長沼地区に行き、被災されたお宅で清掃ボランティアを行いました。

今年度の活動は、今後のコロナの感染状況でどうなるかわかりませんが、オンラインを駆使して、できるだけ例会は休まずやっていきたいと思っています。今後ともよろしく願います。



**【外来者講演】**  
**「ひとり親家庭生活状況アンケートの集計結果および支援活動のご報告」**  
 一般社団法人ひとり親支援協会  
 代表理事 今井智洋様

私は富山県の出身で、現在は大阪在住です。ひとり親の支援活動を行っていますが、私自身、祖母が死別のシングルマザーでした。当時は後妻に行くか子供を手放すしか選択がない中、働いて育てたという事を幼い頃から聞かされて育ちました。私は1年半メンタルの不調で休職した経験があります。孤立はとても恐ろしいものです。ひとり親の皆さんと近い状態でした。

ひとり親家庭は少なく社会的マイノリティ・少数派ですが、それは子供たちにも言えることです。学校でも普通の過程とは違う扱いを受けたりし、孤立が深まったりします。そんなことからひとり親の方々とその子供たちを孤立から守るためにこのような活動を始め、ありがたいことに今では全国に広がりました。長野にも我々のメンバーが多くいます。

自分に出来ることを考えた時、孤立から守る交流会…バーベキューやお花見会、ハロウィンパーティーなどリアルの交流会を各地で開催していました。が、コロナウイルス感染の拡大により現在はZoomによるオンライン交流会などインターネットを介して支えあい、助け合っています。食糧支援の他、なかなか塾に通えない家庭もあるので、そういった家庭には東京大学をはじめとする大学生さんと連携し無料で学習支援も行っています。

それだけではなく、ありがたいことに国や自治体とのつながりもありますので、ひとり親家庭の生活状況のアンケート調査を行い、どのような支援が必要か、

具体的な要望も出しました。(※資料配布一部抜粋)

- コロナの影響で7割弱が収入減・収入減の見込み
- コロナの影響で8割が支出増
- 回答者7割強がひとり親臨時特別給付金を受給
- ひとり親臨時特別給付金の使い道は生活費・返済が9割
- 回答者9割強が2度目のひとり親臨時特別給付金を求めている
- 回答者のうち児童扶養手当受給世帯は7割強(2割弱が児童扶養手当非受給者)
- ひとり親臨時特別給付金や児童扶養手当の所得制限の緩和が必要な回答は9割
- ひとり親臨時特別給付金について制度が分りづらいという声も

ひとり親＝貧困の原因について。1人での子育てではどういったことが起こるかという、例えば子供が急に病気になった時、普通ならば親のどちらかが看病をして、もうひとは働きに出ることが可能ですが、ひとり親は仕事を休まざるを得ない。低い給料がさらに低くなってしまいます。もともと正社員だった人は、欠勤が増えると正社員で働けなくなり派遣や契約社員になってしまう。契約社員だった人が更にアルバイトやパートになってしまう。こういったことから貧困になっていくというスパイラルがあります。これがさらにコロナの影響を受け、所得が減っている人が増えているのが現状です。

ひとり親の方々多くは、児童扶養手当を受けており、皆さんも何となくそういった行政の支援を受けている、というイメージがおありかと思います。けれども、実は支援を全く受けていないという家庭も3割ほどあります。所得が240万円を超えると支援が受けられなくなります。しかし児童扶養手当は前年の所得をもとに決まるため、コロナなどの影響で収入が減り、今生活が厳しいひとり親家庭には届きません。児童扶養手当を受給できないことで、割引、食料支援、ひとり親割引、公的支援の対象者からもれ支援が受けられることができなくなります。

我々は、まだできたばかりの小さな団体ですが、ひとり親と子どもたちの笑顔を守るため、様々な活動をしています。まずはHPから活動をご覧くださいませと幸いです。現状を知っていただき、何かが変わるきっかけになってくれればよいなあと考えています。



**【点鐘 13：30】** **福田会長**